

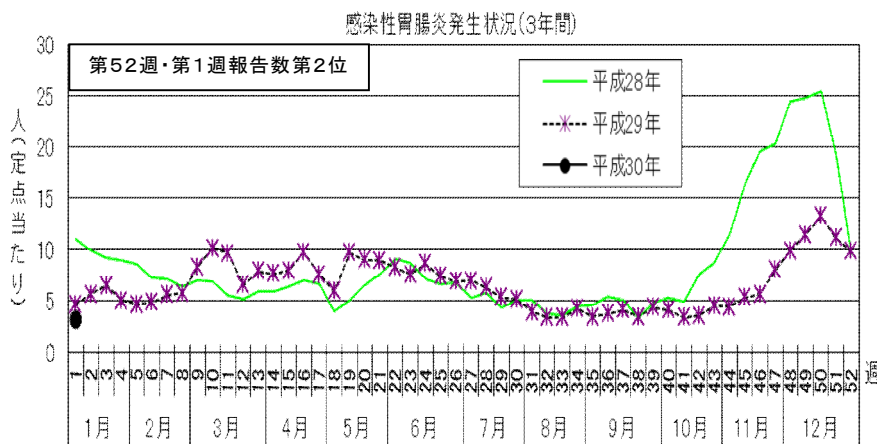
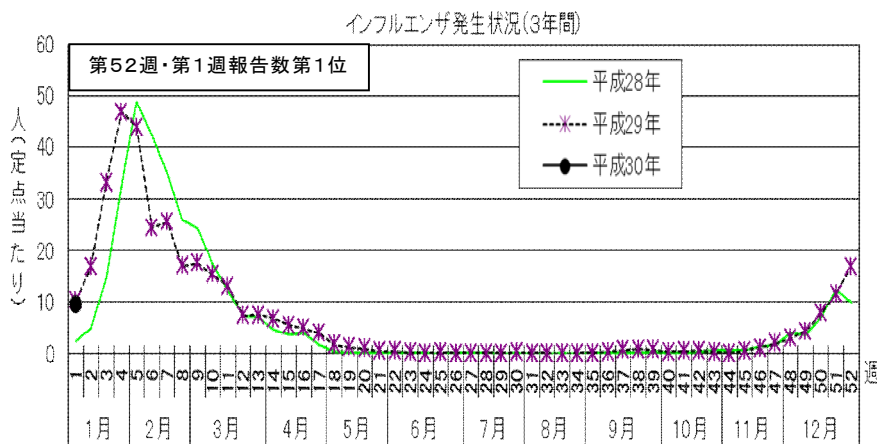
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成29年12月25日（月）～31日（日）〔平成29年第52週〕及び平成30年1月1日（月）～7日（日）〔平成30年第1週〕の感染症発生状況

平成29年第52週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

平成30年第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ 2)感染性胃腸炎 3)流行性角結膜炎でした。第1週は年始で、多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。



インフルエンザの流行発生注意報・警報とは？

インフルエンザの流行状況を早期探知し、迅速に注意喚起を行うため、流行開始、流行発生注意報及び流行発生警報の基準が定められています。

流行開始

1週間の定点当たり報告数が流行開始の目安（定点当たり1人）を超えると流行が始まり、目安を下回ると終息となります。

流行発生注意報

流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを、流行発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性があることを示します。

1週間の定点当たり報告数が基準値（定点当たり10人）以上で発令となります。

流行発生警報

大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

1週間の定点当たり報告数が開始基準値（定点当たり30人）以上で発令し、継続基準値（定点当たり10人）を下回ると解除となります。

川崎市におけるインフルエンザ発生状況(平成28年第35週～平成30年第1週)

